

連絡会通信

最終号

第19号

2015年3月号
3月24日発行

陸前高田市
仮設住宅連絡会

陸前高田市委託
「仮設住宅支援員配置事業」

〒029-2205
陸前高田市高田町字
鳴石5-1
第一中学校仮設住宅
集会所内

(0192) 47-4385

rikutakasetu@gmail.com

最終号となる本号は、
当会の今年度の活動
報告や振り返りを中心に
掲載しています。

解散のご挨拶

三月も終わりに近づき、春の足音がすぐそこまで聞こえてきました。この度、陸前高田市仮設住宅連絡会は、今年度を以って事業を終了し、四月末を予定として解散する運びとなりました。

当会は、陸前高田市の緊急雇用創出事業（震災対応）を受託する際に仮設住宅の自治会長を構成員として発足いたしました。住居の移転等により仮設住宅自治会を取り巻く環境が大きく動いている今、各自治会長の流動的な交代が見込まれる中での会の存続は困難である、との判断に至りました。

本来であれば、当会が行ってきた事業は、多様に变化しながらも、今後、必要性を増してきます。

事業を維持できないことは誠に残念ですが、既存のシステムやこれから立ち上がる新たな取組に期待を寄せつつ、各自において出来る事を考えていきたいと思っております。

これまで、当会の未熟な活動に対するご理解とご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

役員挨拶

会長 金 昭男

（第一中学校仮設住宅 自治会長）

一昨年の四月に産声を上げた仮設住宅連絡会は、本年三月末日をもって事業を終了し、四月末を予定として解散いたします。

道半ばでの解散は誠に残念ではございますが、これまで、五十数仮設住宅の会長や役員の皆様方、関係諸団体の皆様方に於かれましては、多大なるご支援お力添えをいただきまして、衷心より厚く御礼申し上げます。

副会長 佐藤 一男

（米崎小学校仮設住宅 自治会長）

何が正解なのか分からない仮設住宅の運営。それでも、市内に五十ある仮設住宅の会長のどなたかは、自分が悩む問題（支援対応・孤立・状況変化）を解決しているかもしれない。そういう人となりがりたいと考え仮設住宅連絡会を運営してきました。町ごとに違いますが、町の変化は実感できます。

これからは新しい段階に移ります。これからも問題を共有し、一歩を進めたいと思っております。

ありがとうございます。



副会長 武蔵 和敏
（打越仮設住宅 前自治会長）

陸前高田市仮設住宅連絡会を

設立し二年間、大変お世話になりました。

未だに多くの被災者が仮設住宅の不自由な生活を余儀なくされる中、当会の支援員も仮設住民への寄り添いや、カフェの運営、連絡会通信等で住民の悩みや孤立を避ける活動を行ってまいりました。

各仮設住民の皆様、はじめ自治会長様には大変お世話になりました。一日でも早い皆様の生活の再建をお祈りし、この場をお借りして御礼申し上げます。

副会長 戸羽 貢

（長洞仮設住宅 代表者）

わたしは、これまで祖父の代から三回の津波を経験してきました。今までは『生きてきた』と思ってきましたが、今回の地震で『集落の人たちに支えられ、生かされてきた』ことに気づかされました。この気持ちは今につながっています。

これから、自立再建や災害公営住宅への入居等で仮設からの移転が進みます。住民みんなが、信頼し合い、それぞれの役割をもって、これからもお互い支え合い寄り添い合っていけたらと思います。

皆様、お世話になりました。





カフェ 活動当初は、支援員として硬い部分があり、みなさんとコーヒーを飲んで、只々時間が過ぎることもありましたが、しかし、カフェを通して次第に、みなさんのこころの変化を感じられるようになりました。例えば、最初の頃は、先のことを考えるのも嫌だからと無心になれる手作業を好む人が多かったのですが、徐々に現実と向き合い前を見る為に、復興の様子や住宅再建の情報が知りたいとの声も聞かれるようになりました。これにこたえる為、最近ではタブレットを用いて市内の復興の様子をお伝えしたり、必要に応じて住宅再建関連の窓口におつなぎしたりしています。

マンドリン演奏会

先日、下和野災害公営住宅の集会所で、県立久慈高等学校マンドリン部による演奏会と当会のカフェを合同開催しました。

創部五十年を超える伝統ある久慈高等学校マンドリン部。マンドリンの演奏を通して、みなさんに、少しでも元気や笑顔になってもらえたら...という想いを込め、今回、仙台空港、陸前高田市、大船渡市で演奏会を開催しました。

以前住んでいた町や仮設が違ったり、市外・県外に避難されていた方など、さまざまなたちが集まる災害公営住宅。近所付き合いもまだまだだだという声も聞かれます。今回、演奏会を通して、**住民同士がつながるきっかけになればと考え、マッチングしました。**

演奏会が始まる前から、みんなでお茶っこをしていると、「みんな来てるかなあ？」と更にポツポツと集まってきました。中には、「まだ公営住宅の中に友だちがいないから、こういう機会を通して友だちをつくりたい!」と

いう方も、初めて顔を合わせた方たちもいらっしやいましたが、にこやかに挨拶を交わして、自然と打ち解け合います。声がかかると、三十名近くの学生たちが到着し、準備を開始。集会所はみるみるコンサート会場へと変身です★準備がひと段落すると、学生たちもお茶っこの加わり大賑わい!子どもたちのはじける笑顔に元気をもらい、既に癒しの時間となりました。そして、マンドリン演奏会の始まり始まり♪曲目は「春よこい」「川の流れるように」など、馴染みの時代曲メドレー。みなさんは、マンドリンの音色を聴いたことありますか?その音色は繊細でやわらかく、とてもきれいで、とくに力強い。心に響きます。会場全体をやさしく包み込んでくれるのかのようでした。演奏中、涙する住民の側で、寄り添って一



聊すかしがっている高校生たち 微笑ましい空間です



心地よい音色にうっとり~

緒に涙する学生の姿も。音楽の力ってすごい! どれもそれは、久慈高校マンドリン部のみなさんの「あたたかい心」があつてこそその力です★この日のために一生懸命練習し、素晴らしい演奏を届けてくれたみなさん、ありがとうございます。後日、学生たちに同行された久慈高校マンドリン部の先生からメッセージが届きました。「久慈市も被災地に位置づけられ、色々な支援も受けてまいりました。ただ、本当に被害の著しかった地域を訪れた生徒は少なく、演奏を披露した機会もございませんでした。今回の経験を通して、生徒は東日本大震災の復興に主体的に向き合うことができました。住民の方々と語り合い、一緒に歌うことで、涙を流す生徒もおりました。自分の進路について考え直す生徒もおりました。」

この経験がかけがえのない財産となり、「一生忘れません。」と言ってくれた生徒もおりました。元気を与えなければならぬ私たちが元気を与えられて帰ってくることを祈ります。未来を担う子どもたちの、将来の道や生き方を真剣に考える機会にもなつたことに、わたしたちも嬉しく思います。住民同士のつながりのきつかけづくりにと開催した今回の演奏会&カフェ。参加者の中には、災害公営住宅の住民に声をかけられた後、更に友だちを連れて参加された方もおられました。春の兆しを感じる今日この頃。ご近所さんと青空お茶っこなんてどうでしょう♪ これからも、笑顔の輪が広がりますように...



演奏会の後も、お茶っこの続きで盛り上がりました★

研修・会議

これまでに、行政や各機関が行う各種研修(高齢者ケア・心のケア・災害公営住宅など)に参加し、学んできました。また、当会が参加した主な会議については、下の表をご覧ください。

協働

当会は、昨年発足した(一社)陸前高田市建設業協会 住宅再建推進協議会の特別会員として、住宅の自立再建に係るアンケートの校正や出張相談会のニーズ把握を行っています。しかし、このように、新しく何かを起こすにはとても大きなエネルギーを要しますが、わたしたちには既にもち合せている素晴らしい社会的資源があります。これまでに当会が協働した、食生活改善推進員や、当会が陸前高田市まちづくりプラットフォームの運営委員の立場で「まちあるき」を協働した各地区のコミセンもその一つです。

会議体	内容	参加者
陸前高田市 保健医療福祉未来図会議	陸前高田市(健康推進課・社会福祉課・地域包括支援センター・長寿社会課・教育委員会)が発災後より保健医療福祉関係者と共に、市の保健医療福祉の現状と課題を共有し、直近の対策から未来像を話し合う場。	○市民 ○陸前高田市の保健医療福祉に係る団体・大学・NPOなど
支援担当者情報交換会	実施主体は、陸前高田市健康推進課。 ○住民に対する保健医療福祉活動に関する情報交換 ○活動に関する悩み等の共有・話し合い ○各団体の支援に活用できる勉強会など	市役所関係課、大船渡保健所、大船渡地域こころのケアセンター、陸前高田市社会福祉協議会など
陸前高田市 まちづくりプラットフォーム 支援連絡調整会議	地元の団体で構成された「運営委員会」による運営。 ○団体間での活動状況の共有 ○地域の様子を共有し、連携・協働を生む場を設定。	○市民 ○行政 ○会員登録団体
陸前高田市 子ども支援ネットワーク会議	NPO法人 パクトによる運営。 子どもに関する情報を広く共有することにより、地域ごとの支援格差を軽減し、また、ニーズや課題を、子どもに関わる様々な立場の方々と一緒に考え解決していく場。	○市内で活動する子ども支援団体 ○市内の教育機関、行政機関 ○保護者



『高田に輝の花をさかせよう』

東日本大震災から四年を迎え、三月十一日。人それぞれにこの日を迎えられることと思えます。高田町では、ふたつのあかりが灯されました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。行方不明の方々が一日も早くご家族の元へ帰られることをお祈りいたします。そして、今を生きるみなさまが、日々穏やかに過ごせることをお祈りいたします。



『3.11 夢あかり』

災害公営住宅 建設予定地の定点観測

水上地区
市営 30戸

入居中

柄ヶ沢地区
県営 301戸

平成28年6月 完成予定

3月19日に 抽選会が行われました

3月14日に 新駅舎の開業 セレモニーが行われました。

消防防災 センター側

3月16日、「第3回国連防災世界会議関連 事業」のシンポジウムが開催されました

下和野地区
市営 120戸

入居中

今泉地区
市営 104戸

長部地区
市営 60戸

平成28年度 完成予定

整備が進んでいます

気仙大橋仮橋

完成まであと少し★

167戸:平成27年6月 完成予定
30戸:平成27年7月 完成予定

※キャピタルホテル1000の方向からの撮影

中田地区
県営 197戸

脇ノ沢地区
県営 60戸

平成28年度 完成予定

この地区は、防災集団移転と災害公営住宅の建設予定地です

高田東 中学校方面

現在、防災集団移転の用地の整備中です

西下地区
県営 40戸

入居中

自治会が発足しました

3階建てです

柳沢前地区
県営 28戸

駐車場は 42台分

3月15日に、内覧会が行われました

完成!

※市・県のホームページ、復興 News 陸前高田、陸前高田市震災復興計画 主要事業ロードマップ、復興庁/つちおと情報館(岩手県)、UR 都市機構のホームページを参照しています。

※撮影日の天候や時間帯により、実際の色と異なる場合があります。

大野地区
市営 31戸

平成28年1月 完成予定

ここを登っていくと

正面に見えるのが、建設予定地です

田端地区
市営 14戸

平成28年1月 完成予定

初登場! 少し分りにくいますが、工事が始まっています

2月の動き

町名	自治会数 (内未加盟自治会数)	中間支援				自治会サポート	自主活動	
		配布物	掲示物	イベント	物資		イベント	配布物等
高田	10(3)	0	40	1	0	0	3	12
米崎	8(3)	7	28	0	0	3	0	7
小友	5(1)	4	20	0	0	0	0	5
広田	3	3	12	0	0	1	0	3
竹駒	6	6	24	1	0	0	4	10
横田	5	10	20	0	0	0	5	10
矢作	5	5	20	0	0	0	3	8
気仙	9(2)	9	36	0	0	1	1	10
住田	3	0	0	0	0	0	0	3
合計	54(9)	44	200	2	0	5	16	68

2月1日~28日

※数は町ごとの延べ数です
※高田町には、民間賃貸借上住宅として連絡会に加盟している中田雇用促進住宅を含みます

【項目の説明】
○中間支援：行政や各団体からのチラシの配布や掲示(つなぎ役) 住民や行政・各団体のニーズに基づいた、照合や調整(イベントや物資等)等
○自治会サポート：自治会からのニーズに基づいた、チラシの作成や助成金申請のサポート等
○自主活動：連絡会通信の発行やカフェ(お茶っこ)の実施サポート等

3月の動き

町名	自治会数 (内未加盟自治会数)	中間支援				自治会サポート	自主活動	
		配布物	掲示物	イベント	物資		イベント	配布物等
高田	10(3)	10	10	0	0	0	2	22
米崎	8(3)	0	7	0	0	0	0	12
小友	5(1)	0	5	0	0	0	0	9
広田	3	0	2	0	0	1	0	5
竹駒	6	0	6	0	0	0	1	13
横田	5	0	5	0	0	0	2	12
矢作	5	0	5	0	0	0	3	13
気仙	9(2)	0	6	0	0	0	2	14
住田	3	0	0	0	0	0	0	6
合計	54(9)	10	46	0	0	1	10	106

3月1日~15日

※数は町ごとの延べ数です
※高田町には、民間賃貸借上住宅として連絡会に加盟している中田雇用促進住宅を含みます

【項目の説明】
○中間支援：行政や各団体からのチラシの配布や掲示(つなぎ役) 住民や行政・各団体のニーズに基づいた、照合や調整(イベントや物資等)等
○自治会サポート：自治会からのニーズに基づいた、チラシの作成や助成金申請のサポート等
○自主活動：連絡会通信の発行やカフェ(お茶っこ)の実施サポート等



住民主催のお茶会に支援員がお邪魔し、情報交換などを行っています★

マッチング件数

イベント補助	物資関連	事務補助等
48	4	24



イベント補助

自治会主催のお茶会やイベント、また、支援団体が開催するイベントのサポートを行いました。

自治会独自で企画した、「お花見」や「芋煮会」、「七夕の集い」や「秋祭り」など、住民同士が交流しながら楽しめる行事のサポートにもあたり、支援員も元気を分けていただきました！

物資関連

自治会長より、「自治会に直接物資が届いたが、日中仮設にいる高齢者が配布するには負担が大きいので、手伝ってほしい」という話を受け、自立を妨げないことに留意しながらサポートにあたりました。

高齢者が多い仮設だから、助かったよ～



事務補助等

自治会で開催するイベントの企画の相談対応及び、イベントチラシや資料作成サポート、助成金申請のサポートなどを行いました。

また、「自治会で学生を受け入れることになったが、住民だけでは対応しかねる為、連絡会に助っ人をお願いしたい」という依頼にも応じました。

配布物・掲示物

行政の他、法テラスやポリテクセンター、市内外の団体が開催するイベントのチラシなど、住民のみなさんが活用できるような情報をお届けしてきました。

また、みなさんの住宅再建に直結するアンケートや、その報告書などの配布もお手伝いしました。



物資

市内に寄せられた数種類の詩集を、各仮設の集会所や当会が行うカフェでお配りしました。

また、市内の現状に合わず、お断りしたのものもありますが、シャンプーや生姜製品などをいただいた際は、各コミュニティセンター・他団体などを通して、広く配布しました。



その他

就労支援を行う団体からの相談に応じ、社会的課題への取り組みとして、若者未就労者と住民との交流の場をマッチングしました。

また、アンケートを予定している調査体からの、調査内容から回収までの各種相談に対しては、住民のみなさんのストレスを最小限にする為、目的や還元方法をしっかり確認した上で、必要だと考えられるもののみを選定し、対応しました。

分かっていたつもりでも、実際に現地に来ないと分からない、見えないことがたくさんあることを知りました。一方的な思いではなく、住民のみなさんのことを考えた支援活動をしていきたいです！



陸前高田市仮設住宅連絡会では以下の三本柱を基に活動してきました。

- ◇ 中間支援(情報発信や関係各所とのつなぎ役)
- ◇ 自治会サポート
- ◇ コミュニティサポート(地域間及び目的に応じたグループにおける交流促進など)

どのようなことをやっているの?と言葉だけでは分かりにくいので、事例を踏まえてそれぞれを紹介していきます。

※マッチング(照合や組み合わせ)件数は、2015年3月15日現在のものです。



マッチング件数

配布物	掲示物	イベント	物資	その他
54	19	33	12	7

マッチング件数

イベント	物資関連	その他
17	3	3



イベント

コンサートや踊り、落語や料理教室のマッチングに際し、ニーズが合致した場合には公共スペースなどを活用し、地域全体としての交流のきっかけづくりに取り組みました。

今後、仮設からの移転が増え、現在のコミュニティが再び変化していきます。そんな時、このように誰でも集まれる場所を活用してみてはいかがでしょうか★

物資関連

有事の際に避難所となるところへは、備蓄できそうなものを。地域の方々の利用の多い場所には、集まった時に使えるものを。それぞれの用途を意識し、配布しました。

地域住民と仮設住民が、一緒にイベントに参加できるよう計らってくれて、ありがとう。コミセンとしても、こういうつながりを今後も続けてもらえる嬉しいな♪



その他

市内で活動している団体や、これからのコミュニティを見据えて活動を始めようとしている住民からの相談を受け、助成金申請に係る資料の作成をお手伝いしました。



公民館で開催した「栄養教室」では、住民同士、久しぶりの顔触れに話が弾みました♪

イベント



コンサートや落語会、子ども向けイベント、料理教室など、市内外問わず、たくさんの方からさまざまな依頼がありました。中には、物資同様、現状や条件にそぐわず、お断りしたのものもあります。

そして、今年度は、市内で活動する団体との連携も増えました。例えば、おやこの広場 きらりんきっずが主催した「お出かけきらりん! in 一仮設集会所でお餅つき」や、認定NPO法人 国境なき子どもたちが行った「たこやき交流会」など、世代間交流を目的としたイベントの、企画段階からのサポートを行いました。





第一回・第二回 中心商業地ワークショップ (市民向け)

「新しくできるまちをみんなで考えよう！」

陸前高田商工会では、出店者へ向けた説明会の開催と同時に、**実際にまちを利用する市民の声を聞くこと**、二回にわたり『**中心商業地ワークショップ(市民向け)**』を開催しました。

二月十九日に行われた第一回のテーマは、『**行きたくなる「街」**』。当日は、さまざまな世代の男女が二十名弱集まり、三つのグループに分かれて、配布された「高田地区中心市街地のイメージ図(左図)」を見ながら、意見を出し合いました。高齢者・障がい者・子育て世代・子ども・若者など、さまざまな視点に立って考えることで、色



々なアイデアが出てきました。例えば、「巡回バスがあると、まちに来やすいね」「学生たちのデパートスポットも作ってあげたいよね♥」「誰でも集える場所が欲しいね」などの声がありました。テーマが大きくて、どんなことを話そうかと緊張していた人も、

ワークショップが終わるころには生き生きとした表情に。そう、誰かのまちではなく、**「わたしのまち」**なので★

そして、三月四日に第二回目が開催。テーマは、『**行きたくなる店**』です。

今回も、二十代から八十年代まで、二十人強が参加。

中には、前回の参加者からの話に興味をもって参加した人や、来たくても来られなかった人の声も一緒にもってきたよ!という人も。

グループの議事進行を務める、陸前高田まちづくり協働センターのサポートも相まって、模造紙におさまり切らないほどのたくさん意見が出されました。「お店の中や外にお茶っこができる場所があるといいね」「チャレンジショップ(自分の作品を並べて販売に挑戦するお店があったら面白いよね!」「何屋さんかがわかる看板があったらいいな」などなど。もちろん、「防災もしっかり意識しないと」といった声も。



二回のワークショップを通して出た、**みなさんの想いやつばきは、商工会で検討し、市に提案していく**とのこと。今後、どのように反映されるか期待大です!
市民・商工業者・行政がみんなでつくるまち。それが、「高田らしい魅力が生まれた、わたしたちのまち」になるのではないのでしょうか。

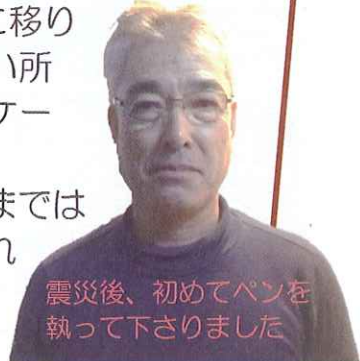


最初の方は緊張して少し表情が硬い

「リレーdeアミーゴ!

震災前、同じ町内会・同じ班だった、熊谷房子先生よりバトンを受けました鈴木文一です。

震災直後は、希望ヶ丘病院内のフロアとその下側の別棟に11家族23名で避難していました。そして、私たち親子は、2011年8月9日に現在の仮設住宅に移りました。近所には知人・同級生等もいて良い所です。仮設内も少しずつですが、コミュニケーションが出来てきたように思います。昨年末に陸前高田市森林組合を退職し、今までは皆様のお世話になってばかりでしたが、これからは皆様方のお役に立っていきたくと思っています。どうぞよろしくをお願いします。



震災後、初めてペンを執って下さりました

【編集後記】

2013年9月から発行してまいりました『連絡会通信』ですが、今回をもって最終号となります。短い間でしたが、お付き合い下さった皆さまに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最終号
心と心と心を込めて
ありがとうございます

